

科学研究費補助金（学術創成研究費）事後評価結果

課題番号	16GS0201	研究期間	平成16年度～平成20年度
研究課題名	電子線ビームによるハイパー原子核分光研究の展開		
研究代表者名 (所属・職)	橋本 治（東北大学・大学院理学研究科・教授）		

【平成22年度 事後評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	期待以上の研究の進展があった
○	A	期待どおり研究が進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い
（評価意見）		
<p>ストレンジクォーク（sクォーク）を含む核子であるハイペロンが入ったハイパー核は、ハイペロン・核子間力が通常の核力と異なること及びsクォークにパウリの排他律がかからないことによって、ハドロン多体系でユニークな役割を果たす。本研究は、ハイパー核を電子衝突で作成し、最高質量分解能で測定することを目的とした。</p> <p>主な実験は米国のジェファーソン研究所（J-Lab）で行なわれ、質量分解能は当初の目標の400keV（FWHM）近くを達成できた。J-Labでの米国側の事情で実験が遅れたため、発表論文数が多くないのは残念であるが、学術的なブレークスルーは成し遂げられたと考えられる。学術創成研究費として、期待どおり研究が進展したと言える。</p>		